

建設工業新聞

大成建設グループ
大成設備株式会社
TAISEI

For a Lively World

〒163-0245 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル45階 ☎03(6302)0150

伊東屋銀座本店建て替え工事

ベトナム人技能者育成モデルで初弾

設計・施工＝大成建設



▲指導員の指示を仰ぎながら現場で作業に当たるクエさん



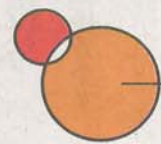
日本式の施工法伝える

東京・銀座の文具専門店、伊東屋が進めている「伊東屋銀座本店建て替え計画」の工事現場で、日本式の施工方法を熟知したベトナム人技能者を育成する取り組みが行われている。外国人技能実習制度を活用し、業界横断でベトナムの建設人材を育成するモデル事業の初弾プロジェクト。施主をはじめ、関係者の理解を得ながら、設計・施工を担当する大成建設、とび工の向井建設などの専門事業者が協力・連携して実習生へのOJTを展開中だ。

(編集部・遠藤登吾)

モデル事業は、日本のゼネ 成推進協議会」が中心となる。専門事業者とこれらで実施している。業界団体を中心となって組 べトナムは経済成長に伴ってインフラ整備などの需要が

スコープ 人材育成



新しい伊東屋銀座本店の完成イメージ

旺盛。日本式の施工方法を熟知した技能者が増えれば、日本企業が現地の建設プロジェクトに参画しやすくなる。そこで業界横断でベトナムからの研修生を指導・育成し、こうした環境を整備しようというのが狙いだ。

伊東屋銀座本店建て替え計画の現場は、銀座の中央通り面に面した中央区銀座2の7の

新しい伊東屋銀座本店の完成イメージ。約66階、制振構造(オイルダンパー付きフレーム構造)などによって耐震性を高める。CM業務を三菱地所設計が担当している。

工事には13年9月に始まり、ベトナムからの実習生が現場で働き始めたのは今年1月。元請の大成建設は、その数カ月前から受け入れ準備を進めてきた。同社東京支店銀座建築作業所の高島洋所長は「社内審査から受け入れ許可までの調整・手続きを進めたり、高所や危険な作業をこまめに知らせる」といったルールを決

めたりと、初めての取り組みなので事前の体制づくりを念に進めてきた」と振り返る。現場で用いる送り出し教育アンケートや作業手順書、新

規入場者教育などの関連資料は、ベトナム語に訳したものを用意した。実習生がかぶるヘルメットには、現場関係者がすぐに技能実習生と判別できるようにシールを張り付けた。立ち入り禁止区域や作業通路などは視覚的にすぐ理解できるように色別にゾーニング。現場のモチベーションを高めるため、技能実習生の受け入れモデル現場であることを周知する横断幕や、ベトナム語のあいさつを表記した朝礼看板なども設置した。

「現場側で行う事前の準備よりも、施主側の了解、協力を得ることが重要だった」と高島所長。伊東屋、三菱地所設計など関係者の理解があっ

て、モデル事業が成り立っていることを強調する。



モデル現場を周知する横断幕

これまで、1日当たり1〜4人の実習生が作業を行ってきた。受け入れている専門工事業者は向井建設のほか、型枠工事を担当する柏倉建設など。日本側の指導員1人に対し実習生を1〜2人付けている。

実習生は日本に来る前にベトナムの教育訓練校で事前研修を受けていることもあった。

「ベトナムでは見たことがない安全な現場。作業方法にじかに触れ、大変驚いた。きれいで仕事もしやすい」と感想を話し、「帰国後は現地の日本企業で働き、日本で習得した知識・技能を生かしたい。周囲のベトナム人にも学んだことを伝え、母国の発展に寄与したい」と夢を語ります。

実習生が現場に出入りするようになって半年が経過した。高島所長は「現場運営・管理の面で特に問題はなく、むしろ全体の安全意識は他現場よりも高まり、いい効果をもたらしている」と評価する。今後可能な工種では、ベトナム人実習生を積極的に受け入れ、国際貢献と併せて現場の活性化にもつなげたいと考えている。

現場の安全意識高まる効果も